

令和3年度第2回  
大阪府市公立大学法人大阪評価委員会  
議事要旨

- 1 日時 令和3年7月13日（火）午後1時30分～
- 2 場所 大阪市役所 屋上階（P1）会議室
- 3 出席委員 （会場出席）高嶋委員長、田辺委員、奈良委員、  
（ウェブ会議出席）平野委員、吉川委員

4 議事内容

（1）公立大学法人大阪第1期中期目標の一部変更について

- ・ 設立団体から資料1-1から資料1-5に基づき、第1回評価委員会からの公立大学法人大阪に係る第1期中期目標変更案の修正事項について説明があった後、審議が行われた。
- ・ 中期目標については変更案のとおり定めることが適当として、「高度研究型大学をめざして法人と緊密に連携し、新大学基本構想及び中期目標変更案をふまえた中期計画となるように留意されたい」などの意見を出すことで進め、意見書の文言は委員長において調整することとなった。

<主な意見>

- ・ 高度研究型大学をどのように実現させるのか。来年の1～2月ごろに中期計画の変更、そして年度計画にも中期目標の考え方が踏襲されていく。中期計画、年度計画の記載に高度研究型大学についてどのように展開されていくのか。中期計画、年度計画に落とし込むときにしっかりそれをふまえて計画を作っていただきたい。
- ・ 大阪公立大学とは何かの説明を求められた時に一番はこれだという発信ができるものがあればわかりやすい。
- ・ 高度研究型大学というのは何十年先に真価が問われる。そのような研究を大阪公立大学でもやっているということを世に示すというのが、大阪の都市格のようなものを長期的に、大阪だけでなく世界に広めていくことにつながる。

（2）公立大学法人大阪令和2事業年度の業務実績に関する評価について

- ・ 事務局から資料2-1から2-3に基づき、公立大学法人大阪の業務実績に関する評価、公立大学法人大阪 各年度終了時における業務実績評価実施要領、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた評価方法について説明があった。
- ・ 法人から、資料2-4から2-6に基づき、2020 事業年度業務実績及び自己評価について報告が行われた後、質疑応答、小項目についての審議が行われた。

<主な意見>

- ・ 「専門職種人材の育成」(NO.2)について、獣医師と社会福祉士の合格率が目標に達成していない。社会福祉士は目標と比べて10ポイント以上乖離があり、評価とし

てはⅡが妥当と考える。なお、達成水準については、合格率に幅を設けるなど、見直しを検討いただきたい。

- 「修学環境の整備」(NO.11) について、健康診断の受診率の向上については、色々な取り組みを行ったと思うが、それでも受診率が36.8%というのは低い。受診率向上に向けてどのような取組を行ったのか説明を受けて、今回の受診率がやむを得なかったと判断できれば、評価はⅢでもよいと思う。受診率向上に向けて他にやるべきことがあったということなら別途検討が必要。
- 「学習支援」(NO.15) について、ポートフォリオへ相談記録を入力した教員の比率については、全学生アドバイザーを母数にとると、相談を受けて、一度でも相談記録を入力したことがある学生アドバイザーが増えたため、比率も上がったと理解。そうであれば、割合で評価するものではなく順調に増えている、というくらいが妥当な尺度。評価については、他の達成水準も踏まえてⅣ評価が妥当と判断する。なお、達成水準の設定方法は次年度よく検討いただきたい。
- 「先端的な研究分野での連携」(NO.54) について、共同・受託研究件数、外部資金獲得金額が大きく目標を上回ったとのことだが、評価ⅣでなくⅤであるという、顕著なことを示す具体的な数値などがあると議論しやすい。次回その説明を受けて評価する。
- 「地域医療及び市民への貢献」(NO.60) について、コロナ対策で評価Ⅴ。ただ、特定機能病院としての機能はかなり落ちていたのか、ほぼ維持できていたのかの記載がない。ネガティブなものも併せて評価すべきと考える。次回別途議論する。
- 「安定的な病院の運営」(NO.61) について、評価Ⅳでもよいのではないかと。空床補償による補助金が原資であったとしても10億円を超える利益をあげている。
- 「3ポリシーに基づく内部質保証体制の整備」(NO.68) について、評価Ⅱは厳しいのではないかと等いろいろ意見があがっているが、CP(カリキュラム・ポリシー)の完成を目指していたが、できなかったということであれば、それはそれでよしとすべきではないか。
- 「学長校長がリーダーシップを発揮できる運営体制の構築」(NO.80) について、高専の体制整備を法人が行うというのは、計画になかった取組みであることを踏まえ、法人の自己評価Ⅳを妥当とする。
- 「組織的なデータ収集等」(NO.81) について、IR(インスティテューショナル・リサーチ)システムのデータ収集ができなかった理由がオンライン授業で業務が大変となり実施できなかったということをもって、評価Ⅲのままでよいのか、評価Ⅱにすべきかいずれがよいかは迷うところ。次回検討したい。
- 「ダイバーシティの推進」(NO.83) について、絶対数が増えているのであれば法人の自己評価Ⅲで妥当と思うが、絶対数が減っていると目標達成とは言い難いと考える。女性教員の絶対数が増えているかなどの説明を踏まえて次回判断する。

以上